

キャラクター名  
大炎寺 龍之介

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー		ワークス	不良高校生	カヴァー	ヤンキー
	サラマンダー			年齢	17歳	性別
オプション	覚醒	感染	衝動	破壊	初期侵食率	30%
出自	経験		邂逅			

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	4	1	0			5	行動値	4
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	2	0	0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	2		調達		
運転：2輪	2		芸術：			知識：	1		情報：裏社会	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
男の拳	白兵	5r+4	4	6		侵食値79以下標準値

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品：特攻服	
コネ：情報屋	
コネ：噂好きの友人	
入院用基平	
ワックス	
スマホ	
下駄	
ボストンバッグ	
学ラン（改造済み）	

合計装甲： 0    合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
大炎寺 秀三 (だいえんじ しゅうそう)	P 尊敬	N 食傷		
東郷 仁 (とうごう じん)	P 憧憬	N 敵愾心		
焰日陽	P 同情	N 不安		
氷室 夕影	P 親近感	N 不安		
イヴ	P 感服	N 不安		
氷炭准	P 遺志	N 脅威		
《羽と牙持つ悪魔の火》	P	N		

最大財産P: 4    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト：サラマンダー	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	C値-Lv（下限値7）							
白熱	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	素手のデータ変更							
炎の回廊（氷の回廊）	1	5	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	飛行状態で戦闘移動。移動距離+[Lv×2]							
結合粉碎	3	4	メジャー	-	-	対決	ピュア	
効果：	ダイス+Lv、装甲無視							
バーニングハート	2	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	ダメージを受けた直後に使用。暴走。攻撃力+Lv×2。							
クロスバースト	5	4	メジャー	-	-	対決	80	
効果：	攻撃力+[Lv×4]、ダイス-2							
不燃体	1							
効果：	彼を燃やすのは己の炎のみである							
メンチ切り	1							
効果：	やんのかワレエ							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

福岡県福岡市出身。中1の夏くらいから「what burns flame」の舞台に引越している。  
 父親は資産家、母親は水商売をやっていた家庭に生まれた。  
 父親は仕事と趣味で海外に行くことが多くほとんど家に帰ってくることはなかった。  
 母親も夜は仕事、昼は寝ているような生活で週に何回かは家に帰ってこないこともよくあった。  
 二人とも自分の子供にそこまでの愛情を持ってなかったのかもしれない。  
 そのため、幼少期の龍之介は家ではさみしい思いをすることが多かったようである。  
 龍之介が中学校に上がってしばらくした後、母親の浮気がばれて両親は離婚。どちらも龍之介を引き取るつもりはなかったところを見かねた父方の祖父が龍之介を引き取ることにした。このタイミングで龍之介は「what burns flame」の舞台に引越してくる。  
 中学校の途中から転校してきたということもあり、龍之介はあまり周囲と馴染めずしばらく孤独に過ごしていた。  
 そんな陰気な龍之介をうざったく思ったクラスメイトが中1の冬あたりから龍之介をいじめ始め、生傷の絶えない日々を送ることとなる。  
 ある日、もうこれは下手したら死んでしまうんじゃないかというくらい殴られていた龍之介は、当時校内で一番に恐れられていた不良に助けられる。  
 助けてくれた男は龍之介の境遇を聞き、

「ひ弱な男は運にも鼻つままれ、何も守れず死んでいくだけだ。強くなれや龍之介。強くなって、一番大事なものの・・・己の芯だけは死んでも守れる男になれ。」

と言って去っていった。  
 その背中に惚れ込んだ龍之介は強くなるために少林拳を習得し、以降はかつての自分と同じく不遇な目に遭わされていた生徒たちを救う存在へと変わっていった。  
 肉体的に強くなっていくと同時に己の正義感と精神面も強くなっていった龍之介だが、頭はあんまりよくなかったため中卒卒業後不良のたまり場として有名な高校に進学。  
 そこは、強者が弱者を踏みにじり、壊すことを至上の享楽とする正に地獄であった。